第5回みらいミーティング会議報告

１　日時　　令和7年1月31日（金）9時30分～11時00分
２　会場　　くらしきすこやかプラザ2階多目的室
３　テーマ　倉敷で子育て
４　参加者　倉敷市母親クラブ連絡協議会

発話者	発話内容
Aさん	（母親クラブ連絡協議会の概要説明） ・母親クラブとは、児童館・児童センター6館を拠点に、子どもや子育て世代に対して、ボランティア活動を行っている団体で、市内に16団体あり、その会の長が集まり、倉敷市母親クラブ連絡協議会を運営している。 ・母親クラブの活動内容を紹介：親子及び世代間交流、児童養育に関する研修、児童事故防止活動、児童福祉向上など。 ・具体的な活動例として、子ども向け行事、絵画教室、クッキング講座、手芸教室、子育て支援、ハロウィン・クリスマス会、交通安全指導、募金活動などを紹介した。
Aさん	・平日の午前中に子どもだけで過ごせる場所の不足など、不登校児童の居場所の必要性を訴えた。
市長	・不登校児童支援として、 担任の家庭訪問や面談による状況把握、学校内での居場所確保の取り組みをしているが、登校できない子には、ふれあい教室（市内5箇所）を案内。対面・オンライン指導を実施し、学校復帰を目指しつつ、子どもが通いやすい環境を提供していることを説明した。
Bさん	・倉敷市は、子どもの遊び場や子どもが参加できるイベントがいろいろとあり、子育てに優しい市であると評価した。 ・共働き世帯へのイベント情報提供および悩みが話せるネット環境の必要性を話した。
Cさん	・自身の子育てについて、母親クラブの行事で出会ったお母さん方に支えられていることを語った。 ・母親クラブの活動内容の周知不足を指摘し、広報紙、HP、インスタグラム等での情報発信強化を要望した。
市長	・子育て情報の収集手段として、倉敷市公式アプリの活用を推奨した。
Dさん	・周囲では、子どもが3人4人の家庭が増えており、上の子の通院、学校行事の時に下の子を預けられるよう、幼稚園児の預かり保育のようなサービスが小学校低学年にもあれば役立つと提案した。
市長	・ファミリーサポートセンターを紹介し、もっとPRが必要だと話した。
Eさん	・休日夜間当番医の広報の情報不足を指摘。小児科の診療可否の明記を要望。 ・休日夜間急患センターの周知徹底の必要性を訴えた。
市長	・休日夜間当番医の広報について、広報紙・HPの表記の改善を約束した。
Fさん	・自身の子育てについて、児童館での母親クラブの行事に参加することで、親子で様々な体験ができ、周囲のサポートにより、温かい気持ちで子育てができていることを語った。 ・通学路の用水路の安全対策を要望。知人の転落事例を挙げ、不安解消のための対策を求めた。
市長	・地域の子育て家庭と地域住民との間の交流は大事だと認識しており、児童館をはじめとする交流の場づくりを進めていることを説明した。 ・ 通学路の安全点検と柵設置などの対策を実施していることを説明。用水路の洪水対策における役割も紹介した。
Gさん	・船穂地区からの児童館利用者から、船穂地区には児童館や、小学生が遊べる公園・広場がないことを聞き、船穂に児童館設置を要望した。
市長	・船穂地区に、すぐに児童館等を建設することの難しさに触れ、既設の児童館・児童センターを利用するよう協力を呼び掛けた。

Hさん	・学校の支援員不足、先生方の多忙さを指摘し、支援員の増員必要性を訴えた。
市長	・支援員の増員について、財政状況を踏まえつつ、学校ごとの状況を把握し、可能な限り配置を進める方針を示した。
Iさん	・自身の子育ての経験では、児童館での出会いにより子どもが複数の居場所が持つことができ、苦しいときを乗り越えることができたので、今の子どもたちに、児童館を利用して学校以外の居場所を見つけてほしいと語った。 ・親が忙しくて連れて行けない子どもでも児童館を利用できるよう、子どもが直接情報を得られるネット活用による情報発信を提案した。
市長	・児童館は親も子も新しい交流が生まれる場なので、広報活動の必要性を認識しており、児童館まつりのチラシを学校へ配布するなど、PR強化を提案した。
Jさん	・夏休み中の水泳教室開催や、学校単位や地域ごとの市民プールへの送迎を要望した。
市長	・プールを持たない学校増加、地域・民間プールの活用推奨の現状など、水泳教育の国の動向を説明した。
Kさん	・自身の子育ての経験では、児童館では、家ではできない経験や友達づくりなど子どもと一緒に楽しい時間が過ごすことができたことに感謝しており、今子育て真っ最中の親子に向けて、自然と触れ合う体験や、様々な仲間と関わり合える経験ができるような行事を企画していることを語った。
Lさん	・自身の子育ての経験として、母親クラブの行事で工作や様々な体験ができたことに大変感謝していると語った。
Mさん	・母親クラブの高齢化と若い世代への周知不足を指摘した。
市長	・若い世代への周知の重要性を再認識した。
Nさん	・真備町は、児童館や子育て支援センターなど、子育てに関わる場が多く充実しており、また災害の際には、子どもに関する施設の復旧が早くてありがたかったと語った。 ・子育て家庭がそれぞれの状況に合わせた選択ができるよう、子育ての施設や制度の充実を求めた。 ・公立幼稚園では園児数が減っているが、給食の日があれば希望者が増えるのではと期待を寄せた。
市長	・認定こども園の普及、幼稚園預かり保育など、子育て中の方が施設や制度を使いやすくなるよう改善していることを紹介した。
Oさん	・母親クラブ会員減少、児童館イベント参加者増加の難しさを話した。
市長	・母親クラブと児童館の良さを広く知ってもらうことの重要性を強調した。
Pさん	・子育て広場のボランティアとしての経験から、子育て広場の情報発信の不足と、子育てに関する相談や交流の場の必要性を訴えた。
Qさん	・子連れ家庭の大規模イベントへの参加の難しさを語り、小規模イベントの充実の必要性を訴えた。抽選に外れることが多い現状や、地域密着型のイベントの増加を要望した。
市長	・大規模イベントと小規模イベントの両方の重要性を再確認できた。
Rさん	・玉島児童館ではうどんのばちを使った食育行事や廃材を使った工作教室などを開催していることを報告した。
市長	・食育の重要性について共感した。
Sさん	・真備町の復興状況と子育て環境充実を報告。児童館を利用している若い母親からの声として、親子向けの軽食提供スペース設置を提案した。
市長	・キッチンカーの協会と災害時協定を結んだことに触れ、活用例を紹介し、児童館の行事等での導入を提案した。